

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人滋賀大学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

(2)構想の実現可能性

経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4)取組の実効性

経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5)成果目標設定の妥当性

成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人滋賀大学長

(検討会の所見)

- 大学の強みを活かした提案になっている。データサイエンス、AI 等に関係していない教員の活性化についてもさらに取り組んでいただきたい。
- この規模の大学の提案としては、エッジが効いていて、前年度の提案よりもずっと魅力的になっている。人材育成や企業との研究協力のDXを進めていくことを期待する。
- データサイエンスや AI 等の関連で、社会からのニーズが一段と高まるなか、①学術研究、②人材育成、③産官学連携の3つの側面で充実・強化を図っていく構想であると評価できる。本分野は変化の速度が速いため、絶えず移り変わる社会からの要請をうまく汲み取りつつ、大学全体の経営改革に反映させていかれるように、柔軟な姿勢で新たな分野への挑戦を続けていくことを期待したい。
- データサイエンスの歴史もあり、今後の発展性も評価できる。KPI も高いが、数値目標にとどまらず実装してほしい。外部資金の運用に関しては担当を決めチェック機能の強化を図ってほしい。
- どの分野もデータサイエンス・AI が必要な時代である。その意味で、重要な取組であるが、さらに滋賀大学の特徴を出す必要がある。
- これまでの実績をベースに、他大学・他機関との連携により研究の高度化、人材育成の拡大、多様な分野での社会実装を推進するという明確なビジョンである。一方で、これまでの延長線上でしかないという物足りなさも感じる。大企業相手の取組みは十分成果が出てきているので、中小企業への施策にもっと重点的に取り組んでいただきたい。
- 地域の中核大学となるには、データサイエンス分野も含め、研究水準を高める基礎的な施策が必要ではないか。また大学院教育改革や若手研究者の育成を通じた研究力の底上げを期待したい。

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人長崎大学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

優れた経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが大いに期待される。

(2)構想の実現可能性

経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4)取組の実効性

経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5)成果目標設定の妥当性

成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人長崎大学長

(検討会の所見)

- 地域及び大学の特性を活かした良い提案になっている。成果を期待したい。
- 感染症研究でリードしてきた長崎大学が海洋イノベーションへさらに拡大させていこうという取組みで高く評価できる。このような多角的なイノベーションの取組みには、ますます高度なプロフェッショナル事務局が必要なのでそれを作り上げてほしい。
- ”プラネタリー・ヘルス”の実現をミッションに掲げ、地元の経済・社会情勢を踏まえて、地元の関係者との議論も深めたうえで進めようとしている経営改革構想であると高く評価できる。長崎県内にとどまらず、国内外の大学や企業との連携の芽が次々と生まれているのも、新たな視点から連携に取り組もうとしており、高い実現可能性が期待できると社会から評価されていることの裏返しではないか。余裕金の運用の点のみ、目標の利回りが4%と日本国内の超低金利情勢を鑑みれば高過ぎると思われ、リスクの高い資産に手を出さざるを得なくなる結果、将来的に損失を被る可能性もある点をよく再考していただきたい。
- 地域特性を考慮して、海洋イノベーション分野を様々な学問分野の連携で切り拓き、大学の成長と地域の成長に結び付けようという優れた計画だと思う。長崎大学らしいスタートアップの育成、若者の地元定着につながる施策の強化をお願いしたい。
- 寄附金をはじめ他企業との連携も見え、実効性は高く感じる。今後、事業を推進する上で若手をいかにして集めるかがキーになる。IR 推進本部を整備しているので、本部の活用を強化いただきたい。
- 長崎大学は、これまでユニークな取組をしてきているが、本申請は海洋イノベーションということで、新たな発展を期待したい。
- 海洋科学のイノベーションを軸とした意欲的な取組みであることを評価するが、この取組が全学に波及し地域の中核大学となり、かつ経営改革に繋げるには取組みの経済効果をもっと明確にして的確な KPI を設定する必要がある。

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人琉球大学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

優れた経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが大いに期待される。

(2)構想の実現可能性

経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4)取組の実効性

経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5)成果目標設定の妥当性

成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

(別紙)

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人琉球大学長

(検討会の所見)

- 実情を見据えた地域貢献の提案であり、ぜひ実行してほしい。
- 研究協力とリスキングを通じた地域の中小企業の振興にフォーカスが当たっているのはとてもよいが、大学にとって、人的にも労力的にも資金的にも持ち出しが続いてしまう可能性がある点に問題があり、どれだけ持続的な仕組みを作っていけるのかが課題である。
- 地元沖縄県の社会・経済が抱える問題点を客観的に分析・認識したうえで、その発展に向けての琉球大学の経営改革計画であると評価できる。琉球大学の地元の発展にかける思いの強さは、全国でも屈指ではないか。他方、地元の中小企業等との連携が中心になるため、琉大側の経営資源の“持ち出し”に過度になってしまう可能性が懸念され、中長期的に持続可能な取組みとなるよう、地元側にも一定の負担を求めつつ、ともに発展していられるような工夫も求められる。
- 沖縄県の地域特性を十分に考慮した非常に意欲的な提案である。大半が中小企業であることから、産学連携によるアウトカムも小規模にならざるを得ないであろうし、中小企業を共同体化して大型の共同研究を創発することも決して容易ではないだろうが、応援したい。
- 地域社会との連動はしっかりとコミュニケーションが取れているが、社会人教育など実施に関しての詳細を他にゆだねている傾向を感じる。自らが募集などに力を入れる必要がある。
- 地域の企業に根ざした取組を継続していただきたい。
- 沖縄の特色を活かした提案であるが、まずは基礎研究力を向上させる工夫がもっとあるとよいのではないか。

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人一橋大学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

(2)構想の実現可能性

経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、やや継続性・発展性に欠ける。

(4)取組の実効性

経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5)成果目標設定の妥当性

成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

令和5年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人一橋大学長

(検討会の所見)

- 学長のリーダーシップの下、国際化を中心に大いに改革が進められていると判断する。成果を大いに期待したい。
- 社会科学分野の大学として、オーソドックスで地道な多くの取組を同時並行的に実施する素朴な提案であり、好感が持てる。学長のリーダーシップによる改革の進展を大いに期待したい。
- 国際的な視点も加わり、指定国立大学としての意欲・実現性も大きいと感じた。なお、人材が2020年度からの5年で40%も入れ替わるという点は、KPIにずれが出てくる可能性もあり、指導力の采配を強化いただきたい。
- 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の申請と選考が進みつつある今、この申請書の提案は、「国立大学経営力強化」というフレームワークよりもむしろ地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の提案ではないかという意見を持っている。また、学部別の入試や学部での教育と研究力の強化との関係を練り直す必要はあるとは思いますが、今回の経営改革の方向性は全く正しい。
- 指定国立大学となったせいか、一橋大学全体としての経営改革の方向性が、自然科学系学部を擁する他の大規模な国立大学の評価基準に引きずられてしまっている感がある。HIASを設立して、重点的な研究分野に経営資源を割く方向性はよいが、わが国が現在、行財政政策、税制、社会政策の面でこれだけ深刻な問題を多く抱えているなかで、HIASがとり上げる分野は新しい課題の分野が中心で、一橋大学が従来から高い業績を上げ国内で高く評価されてきた先述の分野があまり含まれていないことを大変残念に思う。新しい分野の方が、国際的な評価の意味で研究業績はあげやすい、ということなのだろうが、それだけでは、現在のわが国が真に必要なとしている行財政、税制、社会政策面での深刻な課題の解決に向けた貢献はなし得ないのではないか。わが国における社会科学分野をけん引する大学として、自然科学分野とは異なる社会科学分野の特質を鑑みての研究業績の客観的な把握手法についても、もっと検討を深めていただきたい。
- 研究力の強化はどこもめざしているが、それに加えて、一橋大学独自の経営改革の方向性が必要ではないか。

- 意欲的な提案だが、補助金の用途の大半が人件費であること、補助金の不足分を学長裁量経費で賄うとあるが、その裏付けが不十分なことから実現性、継続性に疑念が残る。
- 本補助金による支援を通して、指定国立大学法人としての貴学の構想が、より一層充実・加速することを期待する。